

Tudo bem? ブラジルより

学校教育課 島内三都子

★おもしろいマグネットを見つけました。クリチバの気候の変化の激しさが一目瞭然です。もちろん即購入！晴れマークの次には、毛糸の帽子とマフラー、その右は曇ったかと思えばいきなりの雨。そして、最後はものすごい風。「1日のうちに四季がやってくる」という言葉の通り、目まぐるしく外の様子が動きます。



日本を離れてすでに4週間が過ぎました。ここまで十分長かったのですが、まだまだ折り返しまでには届かず!!です(……)。さて、南陽中の坂柳先生が活動してみえたロンドリーナ市への移動に向けて、荷造りを始めるとしますか。

『いろいろな学校』を訪問しています[2]

◆帰国者が在籍する州立学校 【Colégio Estadual Sao Paulo Apostolo】

日本からの帰国者がいる学校を中心に訪問を重ねてきましたが、ここで初めて豊橋出身の生徒に出会いました。鷹丘小出身で、5年前にブラジルに帰国した9年生の大藤幸久君です。お父さんが日本人、お母さんがブラジル人という言語環境の中で、帰国時期がよかったため、言葉の壁に苦しむことはなかったとのこと。『ピタゴラスの定理』を学習中の教室へもおじゃましました。「今何の勉強をしているかを日本語で説明して」という先生の指示に、幸久君が大きな声で教えてくれました。なぜか皆爆笑！雰囲気から彼の人間関係のよさを感じられ、なんだかうれしくなりました。



【左：幸久君 右：政善君】

この日は、卒業生の兄・政善君も顔を出してくれて、「生徒の目線で見た学校」や「帰国時の苦しさ体験」を教えてくれました。もしかしたら、彼の話が一番心に残ったかもしれません。中学になる前に帰国したお兄ちゃんも、思春期でもあり、ポルトガル語習得までの2年間がとても辛かったとしみじみ語りました。今は大学進学に向けて勉強中だとか。苦を乗り越っての今だから、彼の話はずしりと重みがありました。「がんばったねえ」力をもらった気がします。それにしても、三河弁で話す政善君には笑えた笑えた！二人の会話に、京都出身の通訳さんは？？？そうだよなあ、政善君にとって「日本語＝三河弁」なんだもんなあ。

※「成人式には日本に行って、友達に会いたい」と政善君。きっとまた会えるねとお別れしました。

ブラジルの“見るまま 感じるまま”を思いつくまま…



- ◆交通◆セントロ(街の中心部)の道路は、碁盤の目＋一方通行。車線は比ではないけれど、京都を思わせる。人々は車が途切れた途端に渡り始めるので、信号が変わるのを待っていると「変な人」に見えるほど。交差点では、「よく見て渡れ！」が暗黙の了解??? それにしても、交差点では瞬発力が求められるなあ日々実感。
- ◆人柄◆温かいというか、親切な人が多いブラジルの人。言葉がわからない日本人だと分かったら、なんとか意思の疎通を図ろうと努力してくれる。それは、ジェスチャーであったり、筆談、必死の英語…と手段はさまざま。お互い笑ってあきらめることが大半なのだけど、分かりの悪さに恐縮するほどがんばってくれる姿に親近感こそわいてくる。“Obrigada”
- ◆不思議◆ホテルでのふしぎ。エレベーターに方向違いで乗っている人々。私の部屋は最上階なので、もしやボタンが1つしかない？上下を示す矢印表示が出ない？と疑問を抱き、途中の階で降りてみた。なんだ、ちゃんとあるじゃん、ボタンは2つで表示は上下。上がってきて再び降りてゆくものだから、混雑時は何回待っても乗れやしない13階。いやあ、まいったなあ。